

新クリーンセンター建設事業に係る令和2年度事後調査報告書の概要について

2 新クリーンセンター建設事業

(1) 事業の概要

① 事業者	佐久市・北佐久郡環境施設組合
② 事業実施区域	佐久市
③ 事業の内容	廃棄物焼却施設の建設
④ 事業の規模	処理能力 110 t/日
⑤ 条例該当	第1種事業：ごみ焼却施設（処理能力4 t/時（96 t/日）以上）
⑥ 関係地域	佐久市、小諸市、軽井沢町及び御代田町

(2) 事業の経過

H24. 7	環境影響評価方法書公告
H26. 4	環境影響評価準備書公告
H27. 4	環境影響評価書公告
H28. 6	対象事業着手報告書提出
R 3. 2	対象事業完了報告書提出（完了年月日：R2. 11. 30）

(3) 事後調査報告書の概要

- 令和2年度は、施設本体建設工事が終了し、令和2年12月から供用開始。
工事中における水象、植物、動物及び存在・供用時における大気質、騒音・振動・低周波音、悪臭、水質、水象、景観の調査結果等を報告。
- 水象（工事中及び存在・供用時※）
 - ・観測井戸2地点、既存井戸1地点において、各月1回、地下水位を測定。
 - ・環境影響評価時の調査結果等とほぼ同様の水位であり、地下水位の低下は見られない。
- 植物（工事中）

ヤエガワカンバ	移植成木	一部の枝が枯れているが、その他の枝は十分に展葉。新たなキノコは発生せず、既存のキノコには変化なし。
	播種個体のうち移植（植樹）幼木	H30年移植（植樹）3個体のうち1個体はシラカンバの可能性が高いため近傍に移動させ、代わりにポットで生育していた幼木（H27播種個体）を移植。3個体とも順調に成長。
	播種個体	H28・1個体、H29・1個体、H30・133個体が順調に成長。
オニヒョウタンボク	移植成木	一部個体の葉にカビや虫の食痕が認められたが順調に活着。
	播種個体	H29・1個体生育。H30は未発芽のため生育確認中止。
	挿し木個体	H29・1個体、H31・3個体（R1に枯死した可能性のあった1個体も生育を確認）生育。R2. 3に3種類の土で各10本の挿し木を追加で実施し、計3本が生育。
ギンラン	H25生育場所、H27、28移植場所では確認できず。H29確認地点周辺に生育。	
ノジトラノオ	個体保護のためのロープ張りの内外で38個体（R1:21個体）の生育を確認（開花4個体）。	
ヌマガヤツリ	粉塵付着による影響が懸念されたが、粉塵の付着は見られず、140個体（R1:151個体）の生育を確認。	
ナガミノツルキケマン	H28に3個体を移植した地点で30個体以上（R1:28個体）の生育を確認。生育範囲も拡大し、種子も多数確認。粉塵による影響は見られない。	
キクタニギク	対象事業実施区域の直近で確認した1個体の開花を確認。やや離れた場所でも約23個体が開花。生育状況に異常はなく、粉塵等の堆積も見られない。	
ミズオオバコ	計48個体（R1:52個体）の生育を確認（開花5個体）。工事排水温度による影響が懸念されたが、工事排水は生育地に排水されていない。	
イヌハギ	2個体の生育を確認。粉塵の付着は見られなかった。	

○ 動物（工事中）

ベニモンマダラ	<ul style="list-style-type: none"> 食草のクサフジの移植先で植被面積を測定。H29:約7.8㎡、H30:約17.0㎡、R1:約17.9㎡、R2:約6.4㎡と減少。減少の原因は、他の草本類の繁茂と考えられ、R2.11に繁茂したスゲ類の除草を実施。 ベニモンマダラの成虫は、生息基盤移植先で5個体、事業地内の移植元（クサフジ残存）で39個体を確認。
クリイロベッコウ	移植後の調査を実施。移植先で生貝2個体、本種以外の陸産貝類を確認。
希少猛禽類	ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、ハヤブサ、ミサゴの生息が確認され、工事に対する警戒行動等は確認されなかった。ハチクマの繁殖可能性が示唆された巣で幼鳥の巣立ちを確認。
水生生物等	工事排水に伴う水温の変化による影響が懸念されたが、工事排水は4月のみ場外排水し、また、水生生物等の主な生息環境である湯川に直接排水しなかったことから、影響はない又は極めて小さいと考える。

○ 大気質（存在・供用時※）

- ・ごみ搬入車両等の走行

調査項目	調査地点	事後調査結果
二酸化窒素	アセス時現地調査と同じ3地点	全地点で環境基準等及びアセスの予測結果を下回った。
浮遊粒子状物質		全地点で環境基準及びアセスの予測結果を下回った。

- ・焼却施設の稼働

調査項目	調査地点	事後調査結果
二酸化硫黄	アセス時現地調査のうち6地点	全地点で環境基準を下回り、アセスの予測結果と同程度又は下回った。
二酸化窒素		全地点で環境基準等及びアセスの予測結果を下回った。
浮遊粒子状物質		全地点で環境基準及びアセスの予測結果を下回った。
塩化水素		全地点で参考値及びアセスの予測結果を下回った。
ダイオキシン類		全地点で環境基準を下回ったが、アセスの予測結果を上回った。調査時の周辺環境の変化等によるものと推測。
降下ばいじん		全地点で参考値を下回った。

※上記の項目のほか、一酸化窒素も測定。

○ 騒音・振動・低周波音（存在・供用時※）

調査項目	調査地点	事後調査結果
騒音	アセス時現地調査のうち1地点	参考値を上回ったが、アセスの予測結果及びアセス時現地調査結果を下回った。
振動		参考値を下回ったが、昼間の事後調査結果がアセスの予測結果を上回った。
低周波音		G特性音圧レベルは参考値及びアセスの予測結果を下回った。1/3オクターブバンド音圧レベルは参考値を下回ったが、中心周波数5Hzの値がアセスの予測結果を1dB上回った。

○ 悪臭（存在・供用時※）

- ・臭気指数を1地点で測定。臭気指数は10未満であり、環境保全のための目標（10未満）達成。

○ 水質（存在・供用時※）

- ・1地点で生活環境項目（浮遊物質、濁度）、健康項目、ダイオキシン類、現地調査項目（気温、水温、外見、臭気、透明度、pH、電気伝導度）、流量を測定。
- ・全ての項目で環境基準を下回った。

○ 景観（存在・供用時※）

- ・景観資源及び構成要素について、落葉季（R3.1）に4地点で調査を実施。
- ・環境保全措置（施設色彩等への配慮、施設形状等の検討等）の実施により、焼却施設の存在による景観への影響はほとんどない。

※ 存在・供用時の事後調査は、冬季分を報告。春季～秋季における調査は、令和3年度に実施予定。